

東富士米軍訓練、リニア中止を 静岡県委・政府交渉

党静岡県委員会は21日、政府交渉を行い、自衛隊東富士演習場への米軍オスプレイ飛来と「104実弾射撃訓練」の中止、リニア中央新幹線建設中止など23項目を要望しました。平賀高成県議、地方議員ら17人が参加。島津幸広、本村伸子両衆院議員、井上哲士、武田良介両参院議員が同席しました。



夜間訓練、残虐兵器使用ゆめよ東富士での「104実弾射撃訓練」について、就寝時間の午後10時前まで行う夜間訓練や残虐兵器の白リン弾使用は沖縄の訓練では行われていない約束違反だと主張。防衛省が沖縄と「同質同量」の訓練だと認識しているとして述べたため、島津議員は沖縄で行われていたか調査し、報告するよう求めました。

また、米空軍のCV22オスプレイの東富士で訓練計画や、海兵隊のMV22オスプレイの演習計画を明らかにさせるよう要望。防衛省は「米軍の行うことなのでわからない。わかり次第すぐ地元自治体に伝える」と回答。参加者は「主権に関わる問題だ」と述べ、報告待ちでなく米軍に情報提供させるよう求めました。リニア・絶滅危ぐ種、重金属調査をリニア問題では、静岡市の環境調査でJR東海が環境影響評価（アセスメント）で確認していない絶滅危ぐ種のチチブコウモリなどが発見されていると指摘し、JRに定期的調査を行うよう指導することを要請しました。国交省は、新たな調査が必要となればJRに適切に伝えると答えました。また、リニア建設地と地質が同じ

「反政府派支配地域」を明記 南スーダン「PKO5原則」崩壊

井上議員・
参院外交
防衛委

井上さとし参院議員は22日の参院外務防衛委員会で、南スーダンPKO第10次要員（5月派遣）の家族への説明で、日本政府がすでにPKO参加5原則が崩れていると認識していたのではないかとただしました。井上氏が示した陸上幕僚監部作成の「南スーダンPKO第10次派遣要員家族説明会資料」（2月1日時点）では、南スーダン北部に「反政府派支配地域」が存在することが明記され、支配地域との境界に「戦闘発生箇所」があることも示していました。

一方、今月派遣された第11次派遣要員の「家族説明資料」（8月1日時点）は、「支配地域」がなくなり、「反政府派の活動が活発な地域」に差し

替えられていました。

井上氏は、政府は「反政府側の支配地域があると家族に説明しながら、第10次要員を派遣した。つまり、参加5原則が崩れていると認識しながら、派遣したということだ」と迫りました。

稲田朋美防衛相は、第10次派遣でも「紛争当事者が現れ出たとは認識していない」と言い訳に終始。井上氏は国連事務総長報告を読み上げ、「2月より8月の方がさらに治安は悪化しているのに改善したかのように家族に説明し、派遣を継続することとは許せない」と批判。「PKO参加5原則は破たん」として南スーダンからの自衛隊の撤退を求めました。

で、リニアと交差するように山梨県から静岡市清水区まで建設される中部横断自動車道は、崩壊・湧水・自然由来の重金属含有問題などで大幅に工期が遅れています。南アルプス大規模トンネル工事では、同様の事象が考えられ、安全性、環境影響、有害物質の再調査、検証が必要だと強調。事象について確認し、報告するよう国側に約束させました。

さらに、静岡市清水区の中心街に、東燃ゼネラル石油が計画している液化天然ガス（LNG）火力発電所について、建設予定地が東海地震の震源域のコンビナート特別区域内で、複合災害で甚大な被害が出るおそれがあるため中止を求めました。経産省と環境省は、地震などの安全問題は、環境アセスの項目に含まれていないと回答。参加者はアセスに含まれていなくとも住民の安心・安全のために国は指導すべきだと抗議しました。

JCP TALK LIVE

日本共産党が丸ごとわかる
11月25日(金) 18:30-
@名古屋市公会堂大ホール



井上 島津幸広 衆院議員



井上 本村伸子 衆院議員



井上 田村智子 副委員長